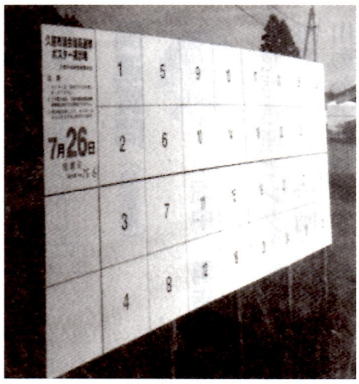
市民共同会報

No.2

発行者
久慈市議会・市民共同
久慈市川崎町1の1
TEL 0194-52-2188（直通）
文　責：高屋敷英則

議員定数 18～20名

市民共同では、次期（平成31年7月実施予定）久慈市議会議員選挙における議員定数に関し、会派として現状24名を、4から6削減し、18名から20名の枠内にすべしとの合意がなされました。これにより全員が定数削減に向けて統一行動を取ることになります。



2015 選挙ポスター掲示板

現在、議会内に設置されている「議会改革推進会議」（正副議長・各会派代表者で構成）では、議長の意向を受けて8月頃を目安に、定数の議論を始める方向で調整が進められています。

この定数問題は過去の議論の経緯を見ても、削減、現状維持の主張が伯仲しており、今回も白熱の議論が交わされるのは必至です。

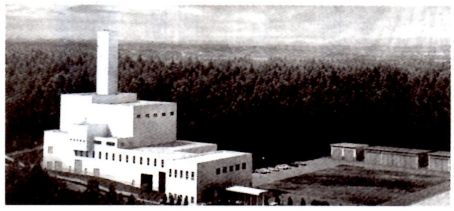
市民有志から定数に関する請願が提出された場合には、待ったなしの特別委員会設置になりますが、いずれにしても、任期満了間際にばたばた定数議論をする事態だけは避けなければなりません。任期折り返し地点では中長期的な視点から適正定数の結論を得たい、市民共同はそれがベストの進行だと考えています。

ごみ・廃棄物処理

現在、久慈広域連合では焼却場の延命化（夏井地区）、隣接する最終処分場の拡張、汚泥の再処理センターの建設（洋野町・中野地区）の工事が喫緊の課題であり、平成30年着工、33年稼働を目指して、今年度から具体の計画が立てられる予定です。

この三点セットの事業費は、焼却場の延命化に28億、汚泥再処理センターの新設44億、最終処分場の対策費や旧施設解体費も含めると膨大な費用になる見込みです。

久慈広域の焼却炉延命化工事にかかる最大の費用は焼却炉部分の工事です。視察先の北秋田市のクリーンセンターが予定している新しい流動床式焼却方式（砂を使って廃棄物をさらに細分化して過熱する）を採用すれば、処理された最終廃棄物の量が十分の一に減量されます。現在、満杯状態に近い夏井地区の最終処分場の延命化につながる大きなメリットがあります。従って、事業主体である久慈広域連合でも、この方式の導入の可能性を具体に調査・検討すべきです。


北秋田クリーンセンター完成予定図

ちなみに、久慈広域の焼却炉の工事は、岩手北部環境組合（久慈・二戸広域自治体で構成）が九戸村に予定していた新クリーンセンターの建設計画が破たんしたために、それぞれの広域で対応することになり、久慈広域では焼却施設の延命化を図る方針に切り替えたものです。北部環境組合は今年三月をもって自然消滅（解散）しています。

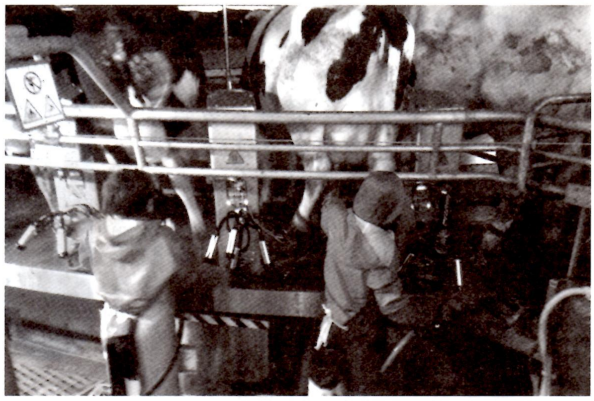
久慈平岳麓の牧場視察

久慈管内は県内でも有数の酪農地帯として、長年地域経済を支えてきました。しかし、高齢化と国際的穀物相場の高騰による飼料価格の高止まり、東日本大震災の影響により酪農家の離農が進み、それに伴って生乳生産量も減少しています。

平成26年、総事業費、約14億で洋野町大野に建設された農事組合法人久慈平岳牧場（田村英寛代表理事）は、地域の生乳生産基盤の拡大と雇用の確保のために平岳の麓に新たな生産拠点を整備しました。

現在、一日の搾乳頭数は500頭（目標は1000頭）。すべてがコンピューターの管理下に置かれ、作業もオートメーション化。妊娠牛を自動で判別して隔離する、あるいは回転式の搾乳台に列をなして行儀よく乗り込む従順な牛たち。

アメリカ研修を経て一念奮起、これまでの地域農業の常識を覆す大規模酪農経営への挑戦が始まっています。


自動の回転台での搾乳光景

一般質問　小倉利之議員

第五回久慈市議会定例会議。三月八日の一般質問に、市民共同を代表して小倉利之議員が登壇しました。

防災無線難聴解消、学童保育、道路整備・総合運動公園基本構想、18歳選挙権への対応など、市政各般の諸課題15項目、24点にわたって当局の考えを質しました。

関連質問（発言順）

畑中　勇吉

＊汚泥再処理センター建設にあたり、悪臭の懸念が指摘されている高家川の公害調査をすべき。

＊1月中旬の暴風高波被害の状況と、今後の対策について示せ。

＊大型トラクターを除雪に活用する考えはないか。

高屋敷英則

＊周産期医療・高リスク分娩へ支援すべき。

＊社会福祉施設・離職率が高い原因である労働環境・待遇の改善に努めよ。

＊総合運動公園と第2期中心市街地活性化事業への合併特例債、発行残高33億の全額投入は認められない。

事実上の白紙撤回

山形総合支所のおらほーる（文化会館）移転構想。耐震診断の結果を踏まえ、各地区で開催された当局の説明会では、平成29年4月には、おらほーるで支所業務を再開する。従って28年度中におらほーるの一部改修工事を完成させなければならない、などを記した資料が配布されました。

あまりにも一方的な計画案に住民が反発、移転反対の署名活動が起り、昨年12月2日、代表者が移転の白紙撤回を求めて、市長に陳情する事態に発展しました。

この日の要望の結果、住民サイドからの提案で、今後の支所のあり方について、改めて山形町民が話し合う場を設定することになりました。事実上の、当局主催案の白紙撤回です。

これを受けて去る1月、各地区自治会長さんらを中心にした「検討委員会」が発足しました。結論までまだ時間を要するかもしれませんが、現在は一般人である山形地区の真のリーダー、元村長や多くの議員経験者たちからも、支所移転問題を含めた地域の未来の在り方についてご意見をいただき、山形町民の総意の形成を図りながら、この総合支所問題を解決してゆくことになります。

総合支所問題で要望

ピックアップ情報

知っておきたい　これからの久慈市

２０４０年までに久慈市の公共施設の更新・改修にかかる費用の試算は２４１７億８０００万円。それまでの間に、全体で40％の施設の面積の削減を実現する、というのが市の「公共施設マネジメント」で謳われている方針・目標です。

この問題は、市内、どの地区にとっても他人事ではありません。古くなった小学校、保育園、類似公民館等、施設だけ見ても、これから老朽化した公共施設から順に槍玉に挙げられ、縮小・統合・廃止を迫られるケースが多々生じます。高度経済成長時代の箱モノ行政のツケとはいえ、問答無用でバッサバッサ切り捨てられては地域もたまりません。

行政の独走を許さず、私たちが生きる道は、私たちの知恵と工夫で切り拓く気概が求められています。

ミニ情報

＊新たな社会福祉法人が旭町に認定子ども園を開設、来春の開業を目指しています。入園児定員70名、スタッフ約30名の募集がもうじき始まります。

＊山形町に小規模多機能（特養）施設が建設されます。開業は30年4月の予定で、スタッフ約30名前後の雇用が予定されています。

市民共同調査研修（H27年9月～H28年3月）

山形総合支所移転に関する市長要望（高屋敷代表同席）、農事組合久慈平岳牧場視察（全員）、北秋田市リサイクルクリーンセンター（全員）、スポーツリクレーションパーク・大館樹海ドーム（全員）、かづの産直「あんとらあ」（全員）、北秋田商業複合施設コムコム「ふれあい市民プラザ」建設予定地視察（全員）、山形酪農組合市長陳情（高屋敷代表同席）、防災公園予定地（道路含む）視察（全員）、矢巾町スマートインター視察（全員）、九戸神社（旧栗駒町）視察（全員）、総合運動公園建設予定地（南田地区）視察・（全員）、久慈広域汚泥施設建設説明会」（畑中幹事長出席）その他

あとがき

＊今回は法事等の諸事情があり、宮沢議員の関連質問がありませんでした。

＊18歳選挙権。残念ながら7月の参議院選挙には間に合いませんが、久慈市議会では、この夏休み中に「高校生・かだって会議」の開催を予定しています。大勢参加して、アッと驚く高校生パワーで久慈市に大旋風を巻き起こしてください。

＊市民協同会報は年2回の発行。もっと回数を増やして、多くの記事を市民の皆さんに提供したいのですが、予算がありません。残念です。